

ユーザー訪問

カウゼル株式会社

大阪府南河内郡美原町小平尾124-1
〒587-0021
☎072-362-5652

非鉄金属材料の細線メーカーである西田細線工業(株)の二次製品部門として、昭和37年より金属タワシの製造販売を開始。48年にヒカリ金属(株)として独立し、その後の5年間に金属タワシ月産50万個を記録、業界トップに躍り出る。60年には現住所に社屋・倉庫を移転し、これを機に社名をカウゼル(株)に変更。商品は諸外国からの引き合いも多く、年産5~10%がヨーロッパや中近東に輸出されている。平成元年には南北アメリカへ進出する拠点として米国フロリダ州に全額出資の法人企業を設立した。

昭和63年に月産100万個を達成した金属タワシを主力商品としながら、一方で、つねに新しい材質の新商品開発に積極的に取り組んでいる。なかでも世界初の銅製クリーナー「メタロン抗菌シリーズ」は、除菌と消臭のダブル効果で、雑菌の繁殖を抑える衛生的な商品として、大阪市立環境衛生研究所の除菌試験にも合格した。平成11年にはボディクリーナー関連の商品、銅の入った軽石「素足美人」を発売。マスコミと口コミで瞬く間にヒット商品となる。



世界初、銅の抗菌力を活かしたクリーナー。

「天使の羽をつけた牛」が、カウゼル株式会社のブランドマークだ。牛(カウ)と天使(エンゼル)を組み合わせたユニークな社名には

「あせらず、ゆっくり着実に、未来へ向かって羽ばたいてゆく」という意味が込められているそうだが最近では、牛のように歩んでいけない状況になってきた。「当社の商品がテレビで紹介されてから、番組終了後は問い合わせが殺到して、あの時は対応に追いついておりました」と西田起夫社長は振り返る。

テレビパブリシティ効果とその後のお口コミによって、瞬く間に愛用者が増えた。量販店のバイヤーや問屋からの引き合いも後を絶たない。もちろんカウゼルは大車輪

の忙しさだ。銅の抗菌パワーを活かした、世界初のクリーナーは、いま大注目のヒット商品なのである。

お肌がツルツル、素足美人

札幌テレビ放送の人気番組「どさんこワイド212」で紹介された商品は、銅微粒子が入った世界で初めての軽石で、その名も「素足美人」。(このネーミングが洒落ているではないか！)

これまでの天然軽石は、角質を取り除くと同時に、皮膚まで傷つけてしまうことがあった。しかし銅微粒子入りの硬質ウレタン発泡体である「素足美人」は、天然軽石よりも気泡が細かく均一化して

いるため、使い心地がソフト。角質化した肘、膝、かかとの皮膚やマメ、タコなどの手入れに最適。銅の抗菌効果によりカビが発生しにくい。ため、きわめて衛生的！

このような特徴を、高視聴率を誇る人気番組が二十分以上もかけてじっくり紹介したのだから、PR効果は絶大だった。

さらにカウゼルの全社員が喜んだのは、放送を観て「素足美人」



「素足美人」



西田起夫社長

「銅の抗菌作用について子供が理解できる資料を作るのは大変でした」と西田眞人常務は笑顔で語る。手紙やEメールで届いた多くの消費者の声は「とても励みになりますね」人から人へ、「素足美人」

を購入した消費者からの手紙だ。たとえば小樽市の主婦は「かかところがツルツルになって嬉しくなり、まとめて二十個買いました。友人や職場の仲間に配ります」。栃木県の小学生は、授業で抗菌性について調べていたので資料を送ってほしいといってきた。「素足美人」を愛用している母親が教えてくれたらしい。

の名はどんどん広がり、昨年は二十万個が出荷された。どこを切っても銅微粒子がビッシリ！

銅を使ったカウゼルの人気商品は軽石だけではない。技術・営業部の西田登志夫取締役が「他にもたくさんあります」といって、テーブルにズラリと並べてくれた。(写真左ページ上)



西田登志夫取締役



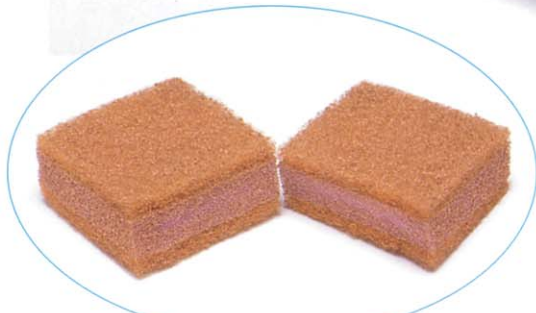
西田眞人常務



主なカウゼル商品。

これらは『メタロン抗菌シリーズ』といって、鍋、皿、コップ、ガスレンジ、流し台など、洗うものによりさまざまな種類があり、年間三十万個も売れているそうだ。表面は銅の特殊コーティングが

施されており、どれも一目でそれとわかる茜色だ。「表面のコーティングなら他社でも作っていますが、ウチの商品がスゴイのは内部なんです。これを見てください」といって、西田常



銅微粒子が中までピシリと入っているスポンジ。

務はスポンジをハサミで真っ二つに切った。顕微鏡で覗いて見ると、キラキラ輝く銅の粒子がピシリと付いていた。表面処理だけでは、洗っているうちに銅微粒子がこすれて落ちてしまう。ところがカウゼルの商品は、金太郎飴のように、どこを切っても銅微粒子が中までしっかりと入っているのだ。ポロポロになって捨てる時まで、銅の抗菌効果が失われないのだ。

新商品への飽くなきチャレンジ

病原性大腸菌O-157にも抗菌効果が認められたことから、銅の微量金属作用（水中に溶けた銅イオンが微生物を殺菌する働き）を利用したキッチン用品は、ここ数年の間かなり増えている。カウゼルもこの時流にのったわけだが、西田社長が銅の抗菌効果に目をつけたのは、いまから二十年以



カウゼル商品が並ぶ応接室

上も前のことだ。「当時、他の金属タワシと一線を画した新商品を模索していました。そのとき頭に浮かんだのが、銅の抗菌力だったのです」

実家の細線製造会社が伸銅品を扱っていたので、西田社長は学生時代から銅に関する知識をもっていたそうだ。しかし、KNO₃はあっても当時はHOWがなかった。いろいろな製造方法で何回も試作品を作り、品質、コストともに満足できるものに仕上げるまでは、試行錯誤の連続だったという。そして完成したのが、銅微粒子を蒸着させた『メタロン』タワシ。大阪市立環境衛生研究所の除菌試験に合格するというお墨付きも加わりロングセラーとなった。この成功をバネに、新たに取り組んだのが、スポンジの中まで銅微粒子が入ったクリーナーの開発だった。スポンジは原料のウレタンを加

熱・発泡して作るが、銅微粒子を原料と一緒に投入することにより、スポンジ内部までムラなく入れることができる。と、言葉で説明するのはカンタンだが、「銅を中まで入れる」ことはきわめて難しいそうだ。投入量が少ないと内部まで浸透しない。逆に多すぎると製造コストが高つく。銅の種類やミクロン単位の粒度も成否を大きく左右する。



事務所の入り口で“天使の羽をつけた牛”（銅製！）が迎えてくれる。

「どうやってこの難題を克服したのか？ それは企業秘密やから、いくら銅センターさんでも教えられまへん」と笑う西田社長。足を棒のようにして情報収集を行い、自ら製造機械まで開発したこともあるそうだ。苦労に苦労を重ねたすえに、ようやく完成した銅製クリーナーは、いまや消費者のハートをがっちり捉えて放さない。銅の抗菌パワーを活かした新商品の開発も進行形だという。天使の羽をつけた牛を、私たちはこれからもっと頻繁に見かけることになりそうだ。